

令和 4 年度 長岡市立図書館の活動評価（案）

令和 5 年〇月〇日

長岡市立中央図書館

令和4年度 長岡市立図書館の活動評価について

1 評価の趣旨

図書館法第7条の3の規定に基づき、令和4年度の長岡市立図書館の活動について、次のとおり評価を実施した。評価は、指標に基づく内部評価と長岡市図書館協議会委員による外部評価から構成される。

2 評価の項目

(1) 基本評価（数値目標に対する達成率評価）

数値目標に対する達成率によって評価を行う。

① 利用状況

個人貸出冊数、予約件数、有効登録者数、実登録者数、郷土資料受入点数、窓口対応満足度、大活字本の所蔵冊数

（中央図書館入館者数、登録率、中央図書館開館日数、特別資料の転載等許可件数、新規購入冊数の割合は参考数値とする。）

② 管理運営費

図書館費及びその内訳は参考数値とし、評価を行わない。

(2) 重点事項評価

長岡市立図書館の運営方針における重点事項について、重点事業の実績をもとに評価を行う。ただし、項番5と6は内部評価のみとする。

令和4年度重点事項

- 1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。
- 2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。
- 3 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。
- 4 長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。
- 5 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。
- 6 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

3 評価の方法

(1) 図書館の内部評価

- ・項目ごとに数値目標と比較するなどして算定し、評価する。
- ・「基本評価」、「重点事項評価」とともに、AAからCまでの4段階の評価とする。

区 分	評価区分・内容
基本評価	AA … 数値目標を大きく上回った。(＋10%超) A … 数値目標を達成・上回った。(0～＋10%) B … 数値目標を下回った。(0未満～－10%) C … 数値目標を大きく下回った。(－10%超)
重点事項評価	AA … 優れた取組が多く、十分成果が上がっている。 A … 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている B … 一定の成果は上がっているが、工夫等が必要である。 C … 成果が上がっておらず、改善や見直しが必要である。

(2) 図書館協議会による評価

○ 協議会の開催

- ・日 時 令和5年2月24日（金曜日）
- ・会 場 長岡市立中央図書館美術センター

○ 協議会の意見のとりまとめ

- ・上記協議会における各委員の意見を委員長がとりまとめ、図書館協議会による評価とする。

4 評価の概要

基本評価は、評価項目を前年度の9項目から7項目へと削減したため、2か年を同一の項目で比較すると、評価対象の7項目中、前年度はA評価が2項目、B評価が5項目であったが、今年度は7項目全てB評価であった。

重点事項評価は、事業別評価の19項目では、A評価が17項目、Bが2項目となった。また、総括評価では、A評価が5項目、B評価が1項目であったことから、全体としては、優れた取組がいくつかあり、成果が上がっているといえる。

5 図書館協議会意見

(1)「基本評価」について

(2)「重点事項評価」について

- 1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。
- 2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。
- 3 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。
- 4 長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。
- 5 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。
- 6 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

【目次】

I 基本評価について

1 利用状況	6
2 管理運営費	9

II 重点事項評価について

1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

(1) 重点事業の事業別評価について	10
(2) 重点事業の総括評価について	11
(3) 個別事業の実施結果について	12
① 貴重資料の活用	12
② 郷土資料の充実	13
③ 古文書等の歴史資料の収集・保存・活用	14
④ 歴史公文書の収集・保存	16
⑤ 長岡市災害復興文庫の収集・保存・活用	17

2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について	18
(2) 重点事業の総括評価について	18
(3) 個別事業の実施結果について	19
① 図書館蔵書の充実	19
② レファレンスサービス（調べもの相談）の充実	20
③ 図書館の環境整備	21

3 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について	22
(2) 重点事業の総括評価について	23
(3) 個別事業の実施結果について	24
① 広報について	24
② 各種機関と連携した事業の実施	25
③ 地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施	26

4 長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について	28
(2) 重点事業の総括評価について	29
(3) 個別事業の実施結果について	30
① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施	30
② 子ども向け図書館サービスの充実	31
③ 学校等への図書館サービスの実施	33

5 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

(1) 重点事業の事業別評価について	34
(2) 重点事業の総括評価について	34
(3) 個別事業の実施結果について	35
① 利用者アンケートの実施	35
② 友の会事業	36
③ ご意見ポスの設置	37

6 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について	38
(2) 重点事業の総括評価について	38
(3) 個別事業の実施結果について	39
① 外部研修・遠隔研修	39
② 職場内研修	40

I 基本評価について

1 利用状況

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度		達成率 (%)	評価
			達成目標値	年度末見込み		
入館者数（中央図書館・人）	238,603	255,216	—	250,408		参考 数値
個人貸出冊数(冊)	1,536,865	1,598,746	1,638,220	1,548,785	95	B
予約件数（件）	240,407	254,240	264,250	260,728	99	B
有効登録者数(人)	41,574	38,101	38,100	35,896	94	B
登録率（%）	15.68	14.52	—	13.74		参考 数値
実登録者数（人）	28,491	28,067	28,070	27,783	99	B
登録率（%）	10.74	10.70	—	10.63		参考 数値
中央図書館開館 日数	292	289	—	275		参考 数値
特別資料の転載等 許可件数	93	55	—	70		参考 数値
郷土資料受入点数	2,048	1,920	1,920	1,906	99	B
窓口対応満足度 （大変よい＋よい）%＜中央館のみ＞	87.9	87.2	87.4	87.2	99	B
大活字本の所蔵 冊数	7,033	6,898	6,900	6,850	99	B
新規購入冊数の 割合	3.1% [26,339 冊]	2.9% [24,323 冊]	—	2.7% [23,040 冊]		参考 数値

* 令和4年度の年度末見込みは令和4年12月末の実績値に令和5年1～3月の見込みを加えた年度末の見込み数値である。

* 達成率は年度末の見込み数値の達成目標値に対する割合である。

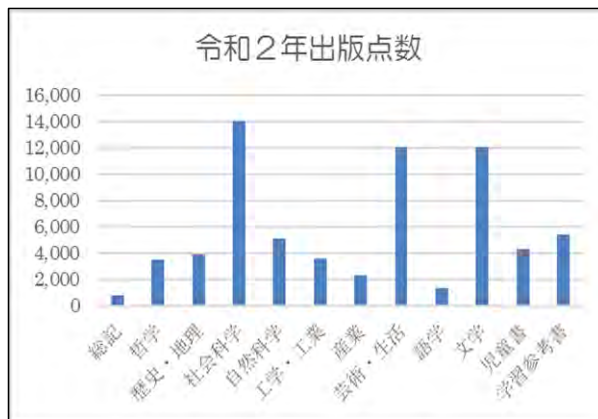
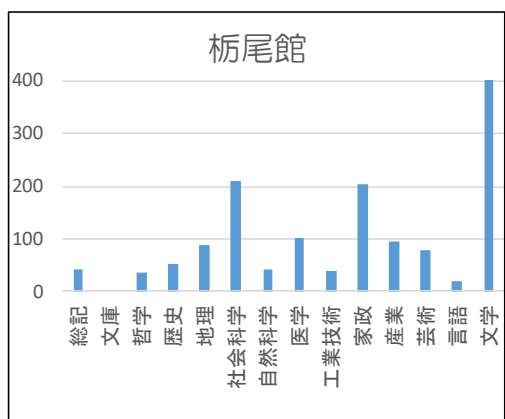
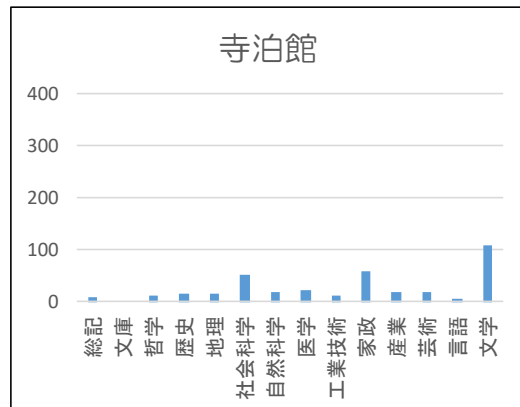
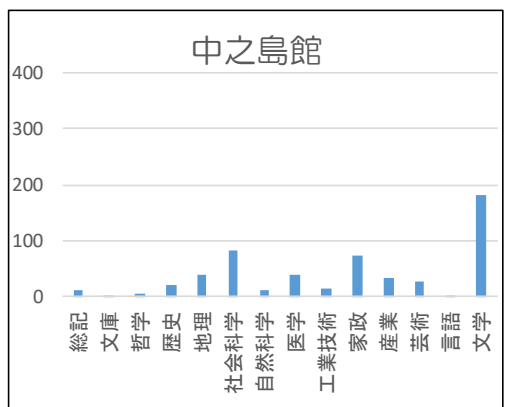
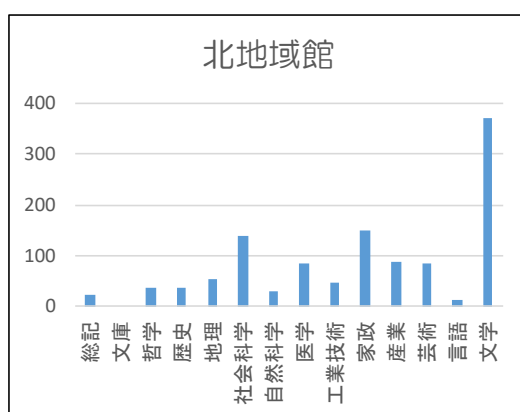
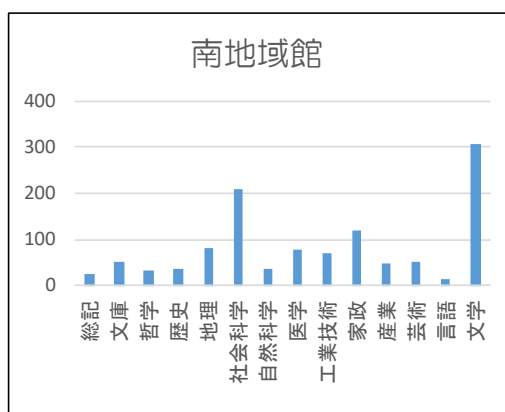
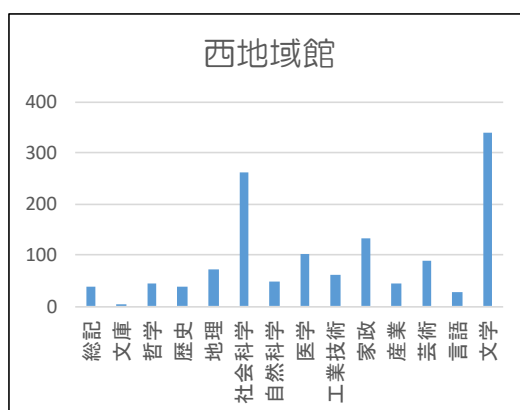
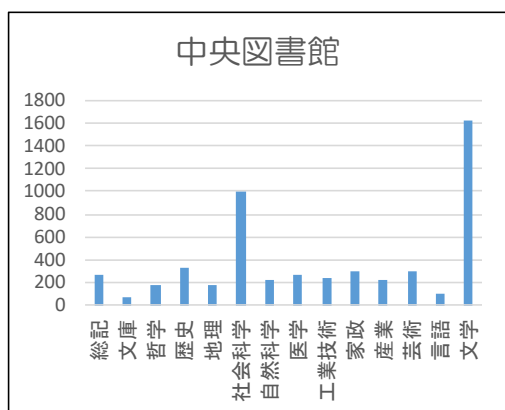
* 有効登録者数は貸出カード有効期限内の登録者数

* 実登録者は有効登録者のうち年度内に1度以上貸出のあった登録者数

【参考】

項 目	令和4年4月～ 12月実績	令和5年1～ 3月見込み	令和4年度末 見込み
入館者数（中央図書館・人）	190,872	59,536	250,408
個人貸出冊数（冊）	1,164,500	384,285	1,548,785
予約件数（件）	191,712	69,016	260,728
有効登録者数（人）	36,359	▲463	35,896
実登録者数（人）	25,489	2,294	27,783
郷土資料受入点数（全館）	1,456	450	1,906
大活字本の所蔵冊数	6,820	30	6,850
新規購入冊数の割合	2.05% [17,290 冊]	[5,750 冊]	2.7% [23,040 冊]

令和3年度長岡市立図書館(一般書)各館分野別購入冊数



総務省統計局「日本の統計」より

2 管理運営費（令和4年度は当初予算額）

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	評価
図書館費 （各年度の決算額・千円）	401,469	354,271	416,470	
（うち施設管理経費）	269,411	267,702	272,432	
（うち資料費）	50,960	48,574	49,086	
（うち事業費）	81,098	37,995	94,952	

Ⅱ 重点事項評価について

1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

(1) 重点事業の事業別評価について

①貴重資料の活用

事業概要	・貴重資料を定期的にエントランスで展示する。 ・貴重資料をホームページやフェイスブックで紹介する。 ・映画「峠」関連展示を行う。	
評価	A	評価理由
		・貴重資料をエントランスや美術センター（1コーナー）等で積極的に公開し、多くの利用者から楽しんでいただくことができた。

②郷土資料の充実

事業概要	・各種出版情報等から情報収集を行い、郷土資料を積極的に収集する。	
評価	A	評価理由
		・長岡市内の郷土資料を中心に、新潟県内の郷土資料について、より一層の充実を図った。

③古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

事業概要	・各種講座の開催、長岡市史双書の刊行などを行う。 ・古文書等の歴史資料の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。	
評価	A	評価理由
		古文書等の歴史資料の適切な収集・整理・保存・活用に努め、市民に向けて目録を公開し、長岡市史双書の刊行（再版）や市民からの閲覧・調査相談などで活用した。

④歴史公文書の収集・保存

事業概要	市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存のうえ、目録を作成する。	
評価	A	評価理由
		庶務課等の関係各課と連携して、歴史公文書の適切な収集・整理・保存に努めた。

⑤長岡市災害復興文庫の収集・保存・活用

事業概要	- 被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。 - 国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新を行う。 - 長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。 - 刊行物の発行などをおして、県内外に情報発信を行う。	
評価	A	評価理由
		長岡市資料整理ボランティアと市民協働で資料整理を行い、国立国会図書館東日本大震災アーカイブひなぎくへの追加掲載等の関係機関との連携を行った。これにより、長岡市災害復興文庫の保存・活用及び災害対応の経験・教訓の全国発信につながった。

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	貴重資料を有効に展示活用するとともに、話題の本も含め幅広い郷土資料の収集に努めた。また、講座等の開催、刊行物の発行、長岡市資料整理ボランティアや関係機関・団体との連携などをおして、古文書等、歴史公文書、長岡市災害復興文庫の整理・保存・活用と情報発信を行うことができた。

(3) 個別事業の実施結果について

① 貴重資料の活用

＜目的・概要＞	
・貴重資料を定期的にエントランスで展示する。 ・貴重資料をホームページやフェイスブックで紹介する。 ・映画「峠」関連展示する。	
1. エントランス展示	2. 美術センター展示
 映画「峠」関連展示	 長岡花火にあわせ1週間だけの展示を行った
＜実績＞	
1. エントランス展示 貴重資料の展示をエントランスで6回（1月現在）行い、フェイスブックでも周知した。 ① 映画「峠」関連展示：河井継之助、三島徳二郎、小林虎三郎の書や書簡、戊辰戦争の記録類 ② NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」関連展示：『吾妻鏡』（江戸時代写本） ③ 互尊翁生誕170年：野本恭八郎の書、肖像画 2. 美術センター展示 3年ぶりの開催となった長岡花火の応援企画として、美術センター1コーナーで、金澤翔子書「長岡大花火」を公開した。 3. フェイスブックでの公開 既存の貴重資料アーカイブ「ながおかネット・ミュージアム」、館報「図書館の窓から」の所蔵資料紹介に加え、1月より新たにフェイスブックで貴重資料を1点ずつ解説付きでの公開を始めた。	
＜課題・今後の方向性＞	
・定期的な展示の中に、市民の興味や関心が高いタイムリーな話題をテーマに加えるなどの工夫をしていきたい。 ・美術センターの空き状況にもよるが、短期間小規模でも展示が可能であれば、検討したい。	

② 郷土資料の充実

<目的・概要>

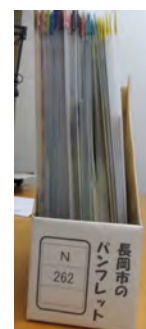
- ・長岡市内の郷土資料を中心に、新潟県内の郷土資料についてより一層の充実を図る。
- ・新聞・雑誌、書店、SNS などから、幅広く出版情報を収集する。
- ・市役所各課で発行する行政資料を収集する。
- ・古書目録等から情報収集して郷土資料を積極的に収集する。

<実績>

	全館郷土資料蔵書数	前年比増加冊数
令和元年度	101,016 冊	1,977 冊
令和 2 年度	102,669 冊	1,653 冊
令和 3 年度	103,953 冊	1,284 冊
令和 4 年度	105,140 冊	1,187 冊

- ・年度初めに長岡市役所全課宛てに行政刊行物等（統計書、便覧、議会資料、記念誌、観光パンフレット等の郷土資料）の資料提供を依頼し、収集に努めた。（地域館、新潟県立図書館、国立国会図書館にも提供するための部数を併せて依頼）

- ・観光パンフレットやリーフレット等を
1 点ずつクリアファイルに入れ、
地域ごとに色分けしたインデックスを
貼って整理した。



<課題・今後の方向性>

- ・出版情報に常にアンテナを張って、長岡市や県内の情報を網羅的に収集していく必要がある。
- ・郷土の調べものに役立つパスファインダーやブックリストの作成も必要に応じて検討したい。
- ・郷土コーナーを知らない方も多いため館内表示をしたり、棚の整備、本への表示シール貼り等、利用しやすくなるような工夫を続けていきたい。

③ 古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

<目的・概要>

- ・ 郷土長岡の歴史を知り、愛着をもってもらうため、文書資料室が所蔵する郷土資料を活用し、各種講座の開催、長岡市史双書の刊行を行う。また郷土の歴史資料を守るため、歴史資料の取扱いについて相談を受け付けている。
- ・ 古文書等の歴史資料の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。

長岡市史双書No.40（再版）



古文書解読講座「古文書に見る長岡のすがた」



<実績>

古文書等の歴史資料の保存・公開に努めた。古文書等の歴史資料を活用し、長岡市史双書の刊行を行い、郷土長岡の歴史を知る機会を市民に提供した。

・ 各種講座の開催

講 座 名	回数	参加人数	会 場
古文書解読講座「古文書に見る長岡のすがた」	3回	212人	中央図書館
長岡市史双書を読む会	2回	81人	中央図書館

・ 新たに公開した古文書等の歴史資料の件数 2件

（内訳：寄贈2件、寄託0件、移管0件、その他0件）

・ 長岡市史双書No.40『三島億二郎日記（4）—北海道拓殖の記—』 500部再版

・ 歴史資料取扱い相談受付数 5件 （うち訪問調査回数 0件）

<課題・今後の方向性>

- 古文書解読講座「古文書に見る長岡のすがた」は、移転準備のため「古文書のいろは」（初心者向け）と内容を統合して開催したが、例年とおりの参加者があった。
- 長岡市史双書を読む会は、昨年度に刊行したNo.61『蔵王権現領安禅寺御用記（7）』をテキストに、江戸時代の長岡の歴史を紹介し、所蔵資料（寄託）の活用を図ることができた。
- 古文書等の歴史資料は、所有者の家の建て替えや代替わりで、個人での保存が難しく、そのまま寄贈となる例が多い。今後も、受け入れ件数の増加が見込まれることから、保管場所を確保するとともに計画的に整理・公開を進めていく必要がある。また、古文書解読講座等の主催行事の機会をとらえて、歴史資料を後世に伝えていくための意識付けをはかる普及活動を行っていききたい。
- 令和5年度の旧サンライフ長岡への移転・リニューアルに向けて、市域の歴史的資料を保存・活用、及び講座等の普及活動の充実を図りたい。

④ 歴史公文書の収集・保存

＜目的・概要＞	
・長岡市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存する。 ・災害復興関連の歴史公文書を長岡市災害復興文庫として整理する。	
歴史公文書の保存箱	歴史公文書の整理作業
※現在作業中のため後日撮影して掲載	※現在作業中のため後日撮影して掲載
＜実績＞	
・歴史公文書の目録件数 （現在整理中） 内長岡市災害復興文庫の歴史公文書 （現在整理中） ・保管場所 旧半蔵金小学校・旧種芋原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など ・歴史公文書（情報公開対応）の問い合わせ件数 〇件	
＜課題・今後の方向性＞	
・歴史公文書の収集・保存に関する基準を再検討する。 ・電子化された公文書の収集・保存方法を検討する。	

⑤ 長岡市災害復興文庫の収集・保存・活用

<目的・概要>

- ・災害と復興の経験・教訓を後世に伝える。
- ・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新を行う。
- ・長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。
- ・機関誌やホームページなどをおして、県内外に情報発信を行う。

長岡市資料整理ボランティア（古文書整理）



長岡市資料整理ボランティア（新聞資料整理）



<実績>

- ・長岡市資料整理ボランティアは、延べ12回活動、延べ109人の参加があった。
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」に「文書資料室だより」（「図書館の窓から」掲載）24点、機関紙「長岡あーかいぶ」21点を新規コンテンツとして追加した。
- ・新潟歴史資料救済ネットワークとの連携は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止した。

<課題・今後の方向性>

- ・平成26年10月に開設した「長岡市災害復興文庫」の市民へのPRを継続するとともに、歴史公文書の収集・保存などの充実を図っていく必要がある。
- ・今後も、国立国会図書館との連携などをおして、県内外の文書館・図書館・博物館とのネットワークの構築を図るとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、長岡市資料整理ボランティアや新潟歴史資料救済ネットワークなどにより一層の連携を図る必要がある。

2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について

① 図書館蔵書の充実

事業概要	・市民の多様なニーズに対応する図書、雑誌等の収集、活用、保存に努める。 ・小規模な地域図書館の蔵書の充実を図る。 ・テーマ展示等で蔵書の活用を図る。	
評価	A	評価理由 中央図書館や、地域館の蔵書について、計画的に収集・整備し、充実を図ることができた。

② レファレンスサービス（調べものの相談）の充実

事業概要	図書館の蔵書や雑誌・新聞記事データベースなどを使い、市民の調べものに必要な図書を探す調査支援の充実を図る。	
評価	A	評価理由 寄せられた照会に対応し、市民の調査支援を行った。

③ 図書館の環境整備

事業概要	安全・快適にご利用いただけるよう施設環境を整備する。	
評価	A	評価理由 施設の老朽化により修繕箇所が増加傾向であるが、優先順位をつけ整備を行った。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	利用者のニーズに応じた資料の充実や施設改修により、図書館サービス向上に取り組んだ。

(3) 個別事業の実施結果について

① 図書館蔵書の充実

<目的・概要>

- ・市民の多様なニーズに対応する図書、雑誌等の収集、活用、保存に努める。
- ・小規模な地域図書館の蔵書の充実を図る。
- ・テーマ展示等で蔵書の活用を図る。

<実績>

コーナーの充実



新潟出版文化賞受賞作を補充して
展示した中央館の郷土コーナー



充実費で買い替えた栃尾館の子育て支援コーナー

- ・市民から要望の多い地域図書館の蔵書充実を図るため、地域館のニーズをより反映した選書で図書約 540 冊を追加購入することができた。そのうち栃尾館は5月の移転オープン後も継続して特に多く（約 360 冊）購入した。
- ・郷土のテーマコーナーとして展示スペースを2ヵ所に増やし、紹介を拡大した。展示にあたってはあらためて関連蔵書の調査を行い、未購入資料を発見・補充することができた。また、県立歴史博物館の展覧会等、外部の企画とのコラボ展示に取り組み、図書の利用につなげるよう取組んだ。

【郷土コーナーでの図書展示】

- 映画「峠」：河井継之助コーナーでの関連図書 PR、司馬遼太郎『峠』出版のあゆみ紹介
- 県立歴史博物館コラボ：「重要文化財村尻遺跡出土品」「大河津分水通水 100 周年」
- 当館文化講座関連：生誕 150 年 杉本鉦子 ブックリストの作成・配布も行った。
- 大地の芸術祭
- 新潟県関連：新潟出版文化賞、県の石ヒスイ

<課題・今後の方針>

- ・地域館の蔵書充実は単年度で完了できるものでなく、まだ古い本が多いのが現状である。今後も蔵書の新陳代謝を継続していく必要がある。
- ・新しい情報が必要な医療、ビジネス、法律等の分野は、特に情報を精査し収集に努めたい。

② レファレンスサービス（調べもの相談）の充実

<目的・概要>

図書館の蔵書や雑誌・新聞記事データベースなどを使い、市民の調べものに必要な図書を探す調査支援の充実を図る。

レファレンス窓口



レファレンスは窓口・電話・メール等で受けている。

レファレンス協同データベースの活用



全国の図書館約 900 館が加入、レファレンス事例約 28 万件が登録されている。事例の調査を参考にしている。

<実績>

・今年度は54件のレファレンスがあった。調査して回答できない場合は、文書資料室等に調査協力を依頼し対応した。（令和3年度51件）

例）栃尾発祥とされる錦鯉の「昭和三色」について

長岡市営無軌条電車（トロリーバス）について

現在の悠久山球場（1967年完成）より古い、栃尾鉄道が作った球場について

長岡藩で行われた剣術や槍術の伝書類について

・県内新任職員研修等でレファレンス研修を受講（4名）

<課題・今後の方針>

・レファレンスについては、図書館内で協力して調査している。必要に応じて文書資料室や新潟県立図書館など関係機関に照会、協力依頼を行う。他館のレファレンス事例を参考にしたり、国会図書館の動画研修を受講する等、さまざまな照会に対応できるよう職員のスキルを向上させる必要がある。

・図書館のレファレンスについて、今後もPRを継続したい。

③ 図書館の環境整備

<目的・概要>

図書館を安全・快適にご利用いただけるよう施設の改修等を行う。

<実績>

日常の点検や利用者のご意見等から必要なものを選び、優先順位をつけ整備・改修を行った。

○中央図書館 トイレ等改修工事（R 5 継続）

空調設備修繕

防火設備修繕

○地域館

・南地域図書館 外灯交換

・南地域図書館 玄関庇雨漏修繕



南地域図書館外灯修繕



南地域図書館 雨漏り修繕

<課題・今後の方針>

- ・設備の老朽化により、改修しなければならない箇所が多くなっている。
- ・限られた予算の中で、計画的に実施していく。

3 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について

① 広報について

事業概要	長岡市や図書館ホームページ、広報誌、SNS を利用し積極的な広報を行う。	
評価	B	評価理由
		Facebook への投稿回数は昨年度を下回ったが、図書館 HP への投稿回数は昨年度と同程度であった。報道リリースを行ったが、記事掲載件数は昨年度より減少した。

② 各種機関と連携した事業の実施

事業概要	他の施設と連携して事業を行うことで PR の相乗効果を狙う。	
評価	A	評価理由
		他の機関とのコラボ展示を行うことで、講演会チラシに図書館の関連図書展示コーナーの情報掲載等、互いの事業をPRすることができ、利用促進を図った。また、これまでにないテーマ設定が利用者にも好評だった。今後も連携を継続することで、新たな利用者層の獲得を図りたい。

③ 地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

事業概要	・特色資料に関連した、または地域の施設・学校などと連携した事業を継続し実施する。 ・調べる学習コンクールなど図書館資料を活用した事業を展開する。	
評価	A	評価理由
		・各地域図書館が持つ特色資料の関連事業の他、近隣の学校や施設と連携した事業を計画し、工夫して実施した。 ・学校を通じ働きかけ、「図書館を使った調べる学習コンクール」作品作りの事前説明会を行い、作品数を増やすことができた。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
B	コロナ禍で、事業や広報について工夫したが、図書館の利用拡大（登録率、貸出冊数）につながる新しい事業や取り組みが少なかった。

(3) 個別事業の実施結果について

① 広報について

<目的・概要>

- (1) 図書館ホームページ、Facebook など広く広報を行い、来館者の増加を図る。
- (2) テレビ・ラジオ等への出演や新聞・雑誌への寄稿により図書館のPR 活動を行う。

年代別に図書館報を発行



フェイスブックでの情報発信



<実績>

- (1) 年代別の図書館報を発行した。
 - 一般向け「図書館の窓から」、中高生向け「YAN=JIN」、児童向け「としょかんくん」
- (2) 図書館ホームページ、長岡市ホームページ、Facebook など広報を行った。
 - ① 図書館ホームページ更新回数 250 回
 - ② Facebook 更新回数 179 回 （臨時休館中も情報発信を行った）
 - リーチ数最大：【中央館 「がんを身近に考える」コーナーのご紹介】 1516 件
- (3) 報道リリースを行い、取材や周知の依頼を行う。テレビで図書館のPR、新聞に書評記事等を寄稿し広報活動を広げる。
 - ①新聞記事等掲載件数 6 件
 - 「日本の古本屋」メールマガジン「書庫拝見」（中央図書館・文書資料室）等
 - ②テレビ取材 4 件
 - NHK きらっと新潟（今見直される河井継之助）
 - ケーブルテレビ取材（米百俵号ミニおひろめ会、今年の干支うさぎの絵本 講演会）

<課題・今後の方針>

- ・ 情報発信回数を増やし、内容を工夫することで、来館者の増加につなげる。
- ・ 新聞・ラジオ等マスコミに露出することで、図書館の認知度向上を図る。

② 各種機関と連携した事業の実施

<目的・概要>

- (1) 他の行政機関等が実施する企画と連携し、お互いの利用の相乗効果を図る。
- (2) 図書館外で、図書館の利用促進を目的とした事業やPR活動を行う。

映画「峠」関連図書特設展示



読書バリアフリー展示



児童コーナーに点字絵本や貸出用布絵本、障害に関する図書や福祉関係チラシを展示。拡大読書器の紹介とリーディングトラッカーの作成コーナー設置

<実績>

(1) 連携展示

○図書展示

- ・近代美術館「平等院展」 5月
- ・選挙に行こう 5月
- ・環境月間 6月
- ・映画「峠」 6月
- ・がん情報 7月
- ・こころの健康 7月
- ・万代島美術館 「和田誠展」 7-8月
- ・認知症ブックフェア 9月
- ・読書バリアフリー 9-10月
- ・エコドライブ 11-12月
- ・まちゼミ 8・2月 など23回

○エントランス展示

- ・県読書おたよりコンクール巡回展示 7～8月
- ・新町小学校 宮沢賢治ポスター展示
- ・岩塚製菓創立75周年 社史展示

(2) 図書館外での活動

- ・米百俵号 特別巡回（栃尾地域交流拠点オープニング、展覧会「ざんねんないきもの事典」、すこやか・ともしびまつり、米百俵まつり、とちびまつり（栃尾美術館）、ハロウィンお化け屋敷、高齢者施設訪問、雪しか祭り）

<課題・今後の方針>

・他の機関と連携することで、講演会チラシに図書館の情報掲載等、互いの事業をPRすることができた。また、エントランスで展示を行うことで多くの方の目に留まった。今年度導入した米百俵号ミニ二を活用し館外での活動を行いたい。今後も連携を継続し、新たな利用者層の獲得を図りたい。

③ 地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

<目的・概要>

特色資料に関連した、または地域の団体や学校などと連携した事業を継続し実施するほか、図書館資料を活用した事業を展開する。

<取り組みごとの内容・評価・課題>

○特色資料に関連した、または地域の団体や学校などと連携した事業

図書館テント ネズミの部屋へようこそ



ネズミの耳をプレゼントし、会場には大きく作った腕時計やチーズを設置しネズミの部屋の世界を再現

新潟県立歴史博物館出張講演「河童が教えてくれた薬」



長岡民話の会の方に昔話を語っていただいた後に「河童が教えてくれた薬」についての講演

<実績>

「図書館テント ネズミの部屋へようこそ」は中之島地域図書館と中之島文化センター、隣接する中之島体育館との合同イベント「さんかんぴ」にて地域図書館 7 館が協力して取り組んだイベント。子ども達が絵本を「声を出して読む」楽しみの実現を目的として、ステージ上にテントを設置し、その中で子ども達に自由に絵本を読んでもらうという内容で会場には大型絵本を数多く用意した。読み聞かせにもたくさんの親子が参加していた。

西地域図書館の特色資料「昔話」と「川」の両方にまつわる河童をテーマにした講演を新潟県立歴史博物館の方から行ってもらい、妖怪の伝承と実生活につながりを実感する機会になった。

他にも栃尾地域図書館では5月の移転オープンの際に栃尾高校生デザインのブックカバーをプレゼントすることで、地域の方にも地元の高校生とのつながりを感じていただける機会となった。また、秋のオープニングイベント第二弾では子育ての駅すくすくや新潟大学の学生ボランティアと共に工作や読み聞かせで施設のイベントを盛りあげることができた。

南地域図書館では、昨年、一昨年とコロナ禍のため展示でのイベントに変更していた長岡農業高校の生徒さんによる苔玉の作り方を、出張園芸教室～苔玉作り～として開催することができた。多世代の交流をはかり、地域の学校の活動を知っていただく機会となった。

<課題・今後の方針>

県立歴史博物館や高校、大学から出張していただき、コロナ感染対策のため参加人数が限られたが、講演会や教室を行うことができた。感染状況をみながらできる限り地域や学校と連携をとり、図書館資料を活用いただける事業を展開していく。

○図書館資料を活用した事業（図書館を使った調べる学習コンクール in 長岡の実施）

事前説明会	審査会の様子
＜実績＞  感染症対策のため、低学年を 14:00～、高学年を 15:30～に分け、参加人数をしばり説明会を行った。	 中央図書館講座室を会場に審査会を行った。力作揃いのため、甲乙つけがたく審査員特別賞に 2 作品が選出された。
＜実績＞ 今年度は市内 27 校の児童から 123 作品の応募があった（昨年度は 30 校 113 作品）。応募者 123 人のうち 38 人が昨年に引き続きの応募であった。低学年から何度も応募している児童や前年の内容を継続して調べたことを作品に仕上げたものもあった。今年で 11 回目となり、これまでの積み重ねで調べる学習コンクールが市内小学校に浸透してきたと感じている。今年も各図書館を会場に行う事前説明会を低学年と高学年に分け、1 回の参加人数をしばって行った。各図書館の開催日をずらしたことで、いつも利用する図書館ではない事前説明会に参加した児童もあり、日程に合わせて参加することができたのではないかなと思う。また、図書館のHPから図書館をつかった調べる学習コンクールへのアクセスがわかりやすくなったことで、HPに掲載されている『作成キット』などをより活用しやすくなったと思われる。 全国コンクールへは例年 3 つの部門から 2 つ最優秀賞を推薦していたが、最優秀賞を高学年の最優秀賞と全国コンクールを意識して地域の特色が表われた作品であった高学年の優秀賞を出品した。	
＜課題・今後の方針＞	
今後も作品作りのきっかけ作りになるよう事前説明会を開催し、図書館資料を活用した作品をコンクールに出品してもらうよう働き掛けたい。また、出品学校数を増やし学校にも働きかけることで、応募数を増やし、全国コンクールへ推薦する数を増やしたい。	

4 長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について

① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

事業概要	平成29年度に策定した「第2次長岡市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。	
評価	A	評価理由
		・読み聞かせボランティアや学校関係者の活動に役立つ講座を実施し、地域全体で子ども読書活動を推進する支援を行うことができた。 ・年代別おすすめ本リスト「よもよもボックス」(長岡の子ども100冊)のブックリスト作成・配布や本の人気投票「よもよも大賞」を実施し、児童へ年齢に応じた本の紹介を行うことができた。 ・希望に応じてよもよもボックスの背表紙ラベルや年齢別の貸出セット「よもよもBOX」を学校・保育園等に運搬し、読書環境の整備に寄与することができた。

② 子ども向け図書館サービスの充実

事業概要	ゴールデンウィークや夏休み等を利用して、子どもたちが読書を始めるきっかけとなり、図書館や本に親しむことができる行事を行う。	
評価	B	評価理由
		コロナ禍でも、家での読書を主とする「サマーチャレンジ」を開催し、図書館や本に親しむきっかけを提供したが、参加人数は減少した。

③ 学校等への図書館サービスの実施

事業概要	図書館から遠い地域にある小学校への米百俵号の巡回や、学級文庫として活用してもらう学校配本、授業用の本の貸出など、学校図書館の蔵書を補う。	
評価	A	評価理由
		児童館や児童発達支援事業所等への児童書セット貸出を新規に行い、より大勢の子どもたちに本が身近にある環境を提供できた。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	コロナ禍においても、子ども読書推進活動の歩みを止めないよう、感染予防対策を十分に検討し、内容に工夫をこらして、できる範囲で各種イベント等の実施に取り組むことができた。

(3) 個別事業の実施結果について

① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

＜目的・概要＞	
平成29年度に策定した「第2次長岡市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。多くの事業を展開する中で、今年度は次の事業を取り上げ評価する。 1. 初心者向け読み聞かせ講座・読み聞かせボランティア養成講座の実施 2. 「長岡の子ども100冊」活用事業	
初心者向け読み聞かせ講座	長岡の子ども100冊選定事業
 講座の様子	 よもよもブックス特設コーナー
＜実績＞	
1. ■初心者向け読み聞かせ講座 実施日：令和4年5月21日（土）10：00～11：30 内 容：図書館や小学校などで、子どもたちの読書推進に役立つよう、基礎的な手法や選書のコツ等を指導した。 講 師：会計年度任用職員（当館司書）高橋啓美 ■読み聞かせボランティア養成講座「赤ちゃん絵本のひとときを」 実施日：令和4年9月21日（水）13：30～15：00 2日（木）10：30～12：00 内 容：赤ちゃん絵本を開く時間の意味や、読み聞かせの「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする意義などについて学ぶ。 講 師：大津 智美氏（NPO ブックスタート） ※オンライン講義 ■読み聞かせボランティア養成講座「子どもの本がもたらす豊かさ～『長岡の子ども100冊』の選書を終えて～」講 師：錦 恵美子氏（新潟大学ゲスト講師） 実施日：令和4年10月8日（土）13：30～15：00 内 容：「長岡の子ども100冊 よもよもブックス」の紹介を交えて親子で一緒に本を読む時間の大切さについて学ぶ。 2. 「長岡の子ども100冊」活用事業 令和3年度末に選定した、乳幼児から中学生まで年代別おすすめ本リスト「よもよもブックス」（長岡の子ども100冊）について、周知・活用事業に取り組んだ。①ブックリスト作成・市内全小中学生に配布。②市内全館でよもよもブックス特設コーナー設置。③本の人気投票「よもよも大賞」を実施。④団体向けセット貸出「よもよもBOX」実施⑤背表紙ラベルを配布し学校・保育園などで	

の活用を支援。⑥各学校へのブックトークでもよもよもブックスを紹介。

よもよもブックスを活用することで、年齢に応じた本の紹介を行うことができた。また、保育園・学校等の希望に応じて、よもよもブックスセットの貸出し・運搬や、団体所有の本に貼るラベルを配布し施設内でのよもよもブックスコーナー設置を支援し、読書環境の整備に寄与することができた。

＜課題・今後の方針＞

- ・新型コロナ対策のため、ボランティアによるおはなし会の内容、会場や開催時間などに制約があり、子どもたちの読書機会減少につながっている。換気や椅子の間隔を確保しながらおはなし会を開催し、読み聞かせボランティアのモチベーションや技術の向上を図っていく必要がある。
- ・子どもの年齢に応じた本の紹介を引き続き行いたい。来館者だけを対象とするのではなく、園や学校を通じてより大勢の子どもたちや子どもと関わる大人に対して働きかけを行っていきたい。

② 子ども向け図書館サービスの充実

＜目的・概要＞

1. ゴールデンウィークや夏休みを利用し、全館共通行事を行う。

■子ども一日図書館員

こどもの読書週間にあわせ、仕事を体験しながら図書館に親しんでもらう。

■としょかんサマーチャレンジ

熱中！感動！夢づくり教育事業の一つとして、乳幼児から小学生を対象に大規模に実施。

夏休みに合わせ、期間中に本を30冊読むことを目的とする「めざせ30冊コース」と、図書館に親しむことを目的とする「チャレンジコース」の2種を用意。それぞれの達成者には賞状や記念品をプレゼントする。読む本は、市内図書館ほか学校図書館や家庭の本でも可で、家庭での読書が主となるため、コロナ禍でのステイホームには有効。

2. コロナ禍での児童サービスの維持

子どもたちの読書活動の停滞を避けるために、コロナ禍でも実施可能な児童サービスを検討し実施に努める。

子ども一日図書館員



本のコーティングに挑戦

としょかんサマーチャレンジ



サマーチャレンジすごろく

<実績>

■子ども一日図書館員

「こどもの読書週間」に合わせ 5/7（土）5/8（日）に、定員を少なくするなどコロナ対策をとって実施。館内見学、貸出返却・本のコーティング体験など。参加人数：14人（全館）

■としょかんサマーチャレンジ

期間：夏休み（7/9～8/21）

「めざせ30冊コース」30冊達成：300人、20冊達成：355人、10冊達成：445人

「チャレンジコース」554人

昨年度に引き続き市内小学校の新1年生全員にチラシ配布を行った。チャレンジコースでは、昨年までのビンゴに代わり、新たにすごろくを実施した。夏休みの恒例行事として定着し、今年度も子どもたちが熱心に取り組む姿が見られ、読書や課題を解決した達成感を得ることができた。

■コロナ禍での児童サービスの維持

【おはなし会】

コロナ対策をとり毎週木曜日の「ちびっこタイム」は職員のみで休まず継続。ちびっこタイムクリスマススペシャルも時間を短めにして実施した。ボランティアによるおはなし会についても、開催時間や会場など、コロナの様子を見ながら少しずつコロナ前の状態に近づけてゆきたい。

【家庭での読み聞かせおすすめ本コーナー設置】

昨年度から実施。「たべもの」「どうぶつ」「かぞく」「ことばあそび」など週ごとにテーマを入替。

【図書館版☆謎解きゲーム きえた本をさがせ】

「秋の読書週間」にあわせ実施しているが、今年度10/31～11/14までトイレ等改修工事臨時休館のため、10/15～10/30に実施。参加者数：63人（内、全問正解：59人）

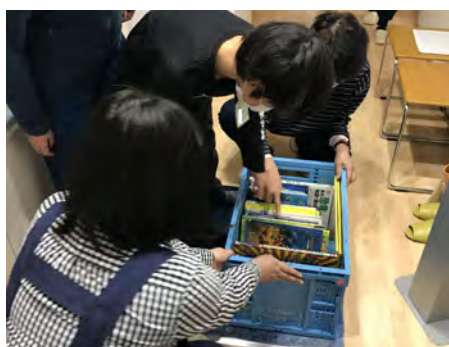
<課題・今後の方針>

子どもたちと本をつなぐために必要不可欠な児童行事が、コロナ禍で減少しないよう、感染対策を実施しながら工夫を凝らして継続していくことが必要。

③ 学校等への図書館サービスの実施

<目的・概要>

- ・読書旬間等に小学校を訪問し、年代にあったおすすめの本を紹介するブックトークを実施。
- ・図書館から遠い地域の小学校に米百俵号で巡回し、本の貸出や読み聞かせを実施。
- ・希望する小・中学校・児童館に学級文庫として使える本を貸出・配送。
- ・児童発達支援事業所および放課後等デイサービス事業所を対象に、図書の貸出・配送を行う「児童書セット貸出」を実施。
- ・「米百俵号ブックカーニバル」では、夏休み期間に児童館・児童クラブを訪問し本を貸出。
- ・「授業用図書セット貸出」小中学校で授業に使用する本を40冊まで2週間貸出。



様々な特性を持つ子どもたちを支援する施設へ児童書を配達。（放課後等デイサービスへの貸出）



夏休み期間中、米百俵号ミニから本を選ぶ子どもたち（米百俵号ブックカーニバル）

<実績>

【ブックトーク】

小学校 公演数 40回 参加者数 1,887人

【米百俵号による巡回】

小学校 訪問数 27校 回数 年10回ずつ

【学校配本】対象を中学校・児童館に拡充

小学校 実施校数 46校 配送箱数 1,180箱（1箱35冊）

中学校 実施校数 6校 配送箱数 70箱

児童館 実施館数 28館 配送箱数 126箱

【米百俵号ブックカーニバル】

- ・夏休み中のイベントとして児童館や児童クラブから毎年好評である。今年は米百俵号ミニで訪問。

（今年度実績）10回実施 参加者数 416人 貸出冊数 911冊

（昨年度実績）8回実施 参加者数 306人 貸出冊数 464冊

- ・【授業用図書セット貸出】103件（全館分）（12月末現在）

<課題・今後の方針>

- ・米百俵号での訪問や学校でのブックトーク・おはなし会の際には、コロナ対策をしっかりと行いながら今後も事業を継続したい。今年度導入した米百俵号ミニを活用した事業を行いたい。

5 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

(1) 重点事業の事業別評価について

①利用者アンケートの実施

事業概要	毎年夏期にアンケートを実施し、利用者のニーズを把握することにより、運営に役立てる。	
評価	A	評価理由
		アンケートにより利用者のニーズを把握し、リクエスト図書を採用基準の周知や資料の状態確認の徹底など業務に活かすことができた。

②友の会事業

事業概要	利用者が集い、読み聞かせや書架整理などの様々な活動を通じて図書館を支援いただく。	
評価	A	評価理由
		恒例行事は引続き自粛となったものの、昨年非常に好評だった「夜の図書館」を開催し、事務局も適切な支援を行った。

③ご意見ポストの設置

事業概要	寄せられた意見を毎月集約し、図書館運営に反映させる。	
評価	A	評価理由
		評価はおおむね良好であり、意見への対応も全て検討し可能な限り改善した。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	おおむね順調な業務・活動を行っており、寄せられた意見に対応した。

(3) 個別事業の実施結果について

① 利用者アンケートの実施

＜目的・概要＞	
例年どおり実施し、昨年との比較や現状の利用者の意見を把握する。	
【中央図書館】 ＜利用者アンケート＞ ○ 館内や本棚の表示について ○ 本の種類の充実度について ○ 希望する本の分野について ○ 希望するサービスについて など	【地域図書館】 ＜利用者満足度アンケート＞ ○ スタッフについて 挨拶や言葉づかい、接客対応など（3項目） ○ 施設の快適さについて 設備、分かりやすさ、案内情報（4項目） ○ 図書館サービスについて 資料の充実、展示物などについて（5項目）
＜実績＞	
○ 中央図書館のアンケート（窓口：8月23日～30日、HP：8月23日～9月30日） 窓口では、貸出しカウンターで配布。窓口対応については、「大変よい」＋「よい」が87.2%と概ね好評をいただいた。 （今年度実績） 配布数 839 回収数 736 回収率 87.72% Web 11件 （昨年度実績） 配布数 823 回収数 728 回収率 88.46% Web 83件 ○ アンケート結果への対応 ・窓口対応については毎年意見にあがるため、一層注意を払うよう心がける。 ・返却本の状態や汚破損についての一層の確認及び利用マナーの周知を行う。	
○ 地域図書館のアンケート（7月26日～8月14日） （今年度実績） 配布・回収数 749（全て回収） （昨年度実績） 配布・回収数 812（全て回収） 今年度もコロナ禍のため、来館を控える方もおられるだろうと期間を長くし、ご協力をいただいた。今回もスタッフの対応については良い評価をいただき、互尊文庫が移転してさびしい「ミライエの新しい図書館が楽しみ」「枳尾館が新しくきれいになってうれしい」と施設についての感想が多かった。	
＜課題・今後の方針＞	
【中央図書館】 本の配置（分類）が分かりにくく、資料が探しにくい旨の意見があったため、表示の見直し等改善に向けて取り組んでいる。 【地域図書館】 毎年のことだが要望として資料の充実に関するものが多く寄せられた。今後も気持ちよく利用していただけるよう、利用者目線で考え対処していく。	

② 友の会事業

<目的・概要>

図書館支援団体として図書館と連携し、活動を運営に活かす。

夜の図書館を楽しむ会 ～中央図書館 24時～

11月24日（土）19時～24時

来館者 301名

【参考】昨年度：来館者 300名

友の会会員参加者 9名

友の会会員参加者 8名



昨年に引き続き、1階閲覧室を24時まで開放したもの。演奏朗読会やブラックパネルシアターによるおはなし会、ミニ工作、書庫見学をはじめ、多くのイベントを実施。多くの会員が参加し、イベントや会場整理などを担当、積極的に運営に携わった。

アンケートでは、「ますます、図書館が好きになった」「夜の雰囲気がとてもよかった」「様々なイベントがあり、楽しい時間でした」など、今回も非常に好評だった。

<実績>

コロナウイルスの影響により、昨年に引き続いて、定例行事の「視察研修」は中止となったものの、「夜の図書館を楽しむ会」と併せ「なりふ古本市」を開催することができた。昨年の経験を踏まえ、運営の改善を行い開催することができた。今後も、図書館活動の応援に繋がる取組として活動を継続していきたい。

（今年度実績）

総会、夜の図書館を楽しむ会～中央図書館24時～、書架整理、布絵本の会、つぐみの会など
栃尾地域交流拠点施設オープニングイベント参加

個人会員 33名 賛助会員 20

（昨年度実績）

総会、夜の図書館を楽しむ会～中央図書館24時～、書架整理、布絵本の会、つぐみの会など

個人会員 31名 賛助会員 80

<課題・今後の方針>

今年は「夜の図書館」で友の会に興味を持ち、新規入会いただいた方がいらっしゃった。今後も、会員が主体となった企画・運営の取組みへの支援を行い、より魅力的な図書館サービス・イベントを行うことで、幅広い世代の新規会員の加入促進に繋げたい。

③ ご意見ポストの設置

＜目的・概要＞	
・開かれた図書館とするため、利用者の意見や要望を広く収集し、今後の運営に役立てる。 ・意見の回答を掲示するとともに、事業改善を行う。	
＜主な要望＞	
（中央図書館） ・1階トイレのドアや個室を改修してほしい。 ・館内での利用マナー周知に努めてほしい。 ・資料の分類表示を分かりやすくしてほしい。 ・冷房をきかせてほしい など	（地域図書館） ・冷水飲料装置を修理するか、新しい機械を購入して欲しい。 ・学習席の数を増やして欲しい。 ・館内のBGMは不要。 ・検索用PCのキーボードが汚い。
＜実績＞	
（中央図書館） ・毎月意見を集約し、可能な限り対応した。 ・窓口対応については、おおむね好評価をいただいている。 ・トイレについては、令和4年度11月からドアをはじめとしたトイレ全体の改修を開始。 ・マスクの着用について、厚生労働省の基準に基づき状況に応じて館内放送を行う等対応をした。 ・分類表示について、令和4～5年度にかけて見直し等改善予定。	
（地域図書館） ・意見に対し可能な限り対応した。 ・冷水飲料装置は修理不可能であり同様の装置の新設も困難。熱中症対策として、熱中症が疑われる症状の方に提供するための経口補水液をカウンターに用意している。 ・コロナ感染状況を見極め、学習席を増やすことを検討し対応する。 ・以前、一度BGMをなくしたところ、逆に「うるさい」という苦情が増えたことがあり、今回はBGMのボリュームを下げて対応した。 ・検索用PCや利用者開放端末のキーボードについては、定期的に掃除をおこなった。	
＜課題・今後の方針＞	
普段職員が気付きにくいことについての意見が多かったため、利用者の目線に立ったサービスの改善を一層心がけていく必要がある。	

6 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について

① 外部研修・遠隔研修

事業概要	県立図書館主催の研修等に職員を参加させ、また研修で得たことを職員間で共有し図書館職員としてのスキルアップをめざす。	
評価	A	評価理由
		・研修に参加し、情報の共有を図り、職員のスキルアップを図った。 ・昨年度に比べ参加人数が減少したものの、内容の充実した研修に参加し、課題論文に取り組む等研鑽に取り組んだ。

② 職場内研修

事業概要	職員全体での研修会を行い、職員全体の資質の向上を図る。	
評価	A	評価理由
		・中央図書館では外部講師を招いての係内研修を2回行った。また、外部研修に参加した職員が係内で報告する係研修を行う予定。 ・地域図書館では県内スタッフが集まる研修は日程を分け、参加人数をおさえて地元の講師をお願いし、本社関係者が講師の場合はオンラインやeラーニングを活用した研修を行った。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	外部研修・職場内研修ともに予定通り実施し、成果を上げることができた。

(3) 個別事業の実施結果について

① 外部研修・遠隔研修

<目的・概要>			
・新潟県立図書館などが主催する研修に職員を参加させ、また、研修で取得したことを職員間で共有し図書館職員のスキルアップを目指す。 ・地域図書館では、県立図書館主催の外部研修に今年度も積極的に参加する。			
<参加研修>			
*①視覚障害者サービス研修（基礎編） 5月25日（中央館5名、地域館3名） 11月25日（中央館4名） *②新潟県公共図書館新任職員研修会 6月16・17日（中央館3名、地域館3名） ③新潟県公共図書館児童部門研究集会 7月1日（中央館2名 地域館2名） *④サピエ研修会 7月7日（中央館1名） *⑤障害者サービス担当職員養成講座（基本編） 8月2日（中央館5名） *⑥子ども読書レベルアップ研修 9月7日（中央館2名、地域館1名） 9月9日（中央館3名、地域館2名） ⑦新潟県公共図書館総合部門研究集会 10月4日（中央館3名、地域館4名） *⑧レファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方」 11月10日（中央館1名） *⑨国際子ども図書館児童文学連続講座 11月29、30日（中央館1名受講、地域館1名部分受講） *⑩新潟県公共図書館中堅職員研修会 9月27日（地域館2名）、11月4日（中央館2名） *⑪図書館総合展 11月（中央館3名参加） *⑫がん情報センターフォーラム 11月17日（中央館2名） ⑬関東甲信越静地区図書館地区別研修 11-12月（中央館1名参加） *⑭ビジネスライブラリアン養成講座 12-2月（中央館1名） *はオンライン研修			
<実績>			
（今年度実績）	中央図書館	39名 参加	地域図書館 18名 参加
（昨年度実績）	中央図書館	59名 参加	地域図書館 24名 参加
・中央図書館では、オンライン研修へ積極的に参加し、先進地の事例や最新の機器、サービスの動向情報を得ることができた。部門会議等で情報共有し、今後の業務に活かしたい。 ・地域図書館では勤務人数の関係で参加することが難しい研修もあったが、参加した研修について館内だけでなく地域館全体として情報を共有した。			
<課題・今後の方針>			
○中央図書館			
外部研修の成果（情報）を職員間で共有し、業務改善に取り組み、長岡市の事業としてどう反映させるか検討していく必要がある。			
○地域図書館			
県立図書館主催の外部研修には今後も継続して参加していきたい。勤務人数の都合上、全館平等に			

参加することが難しいが、各館でもオンライン研修に参加しやすい環境を整え、希望する研修が受講できる回数を増やしていきたい。

② 職場内研修

<目的・概要>

- ・係研修を行ったり、外部研修に派遣された職員が講師となり研修報告会を行うことで、職員の資質や専門性向上・情報共有を図る。
- ・各種研修に当館職員を講師として派遣する。
- ・地域図書館ではスタッフの能力育成のため、図書館員としての知識やスキルを向上させる地域館合同研修を行っている。

<研修内容>

○中央図書館

- ①データベース Miena 研修 6月30日 (参加 26 名)
- ②障害者サービスに使える国立国会図書館のサービス 8月31日(中央館 30 名地域館 5 名参加)
- ③職員提案型研修 資料管理(蔵書構成・選書) 11月28日 講師 内野安彦氏(12名参加)
- ④参加研修報告会 2月(予定)
- ⑤新潟県立図書館訪問研修(資料保存) 3月6日(予定)

○中央図書館 講師派遣

- ①長岡市三島郡学校図書館協議会研修 6月22日
- ②まちなかキャンパス「図書館の達人になろう」7月10、17、25日
- ③新潟県公共図書館職員新任職員研修 9月1日
- ④まちなかカフェ「本と図書館のホントのかしこい使い方」10月11日

○地域図書館

- ①長岡全体研修 10月31日 参加人数 40名
クレーム研修(講師:ライブラリー・アカデミー 大松澤 和美氏)
個人情報保護研修
- ②新潟・燕・長岡全体研修日程が調整できず長岡研修に変更
1月31日 参加人数42名
ブックスタートと読み聞かせ(講師:中央図書館 金安さん、竹田さん)

<中央図書館、他市TRC研修への参加>

- 障がい者サービスに使える国立国会図書館のサービス (5名参加) 8月31日
- TRCステップアップB研修(1名参加) 12月28日
- TRCレベルアップ研修(8名参加) 12月15日
- TRC責任者研修(1名参加) 3月予定

<実績>

(今年度実績) 中央図書館 5回実施 地域図書館 6回実施

(昨年度実績) 中央図書館 5回実施 地域図書館 8回実施

中央図書館では係研修を行うほか、国立国会図書館に依頼して研修を行った。職員提案型研修により選書・資料管理に関する研修を行った。

地域図書館では3年ぶりに長岡スタッフ全員が集合しての対面での研修を行うことができた。クレ

ーム研修では日頃の悩みを共有することができ、接遇につながる貴重な研修となった。

＜課題・今後の方針＞

中央図書館では、図書館事業をより充実させるため、サービス向上につながる研修を継続して行いたい。オンライン研修を取り入れ、より多くの職員のスキルアップを図りたい。

地域図書館では、研修に参加することでスタッフのスキルアップを図り、サービス向上につながるようにしていきたい。